★スタートカリキュラム　スタートブック

「学びの芽生え」から「自覚的な学び」をつなぐスタートカリキュラム

幼児期　**学びの芽生え**

●楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
●遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
●日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。

自立
成長
安心

児童期　**自覚的な学び**

●学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間(休憩時間等)の区別がつき、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
●各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
●主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、いっしょに活動したりすることで他者と関わり合う。

【幼児教育】

●５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を総合的に学んでいく教育課程
●子どもの生活リズムに合わせた１日の流れ
●身の回りの「人・もの・こと」が教材
●総合的に学んでいくために工夫された環境の構成など

生活の段差
学びの段差
指導の段差

【小学校教育】

●各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
●時間割に沿った１日の流れ
●教科書が主たる教材
●系統的に学ぶために工夫された学習環境　など

子どもたちの問題の
低年齢化・多様化

小1プロブレム
等の発生

連携と接続の
工夫が必要

スタートカリキュラム

「スタートカリキュラム」とは？

「スタートカリキュラム」とは、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した**第１学年入学当初のカリキュラム**のことです。

入学したばかりの児童に「明日も学校に来たい。」という学校生活に対する**意欲と安心感**をもたせ、幼児期の教育から小学校教育への**円滑な接続**をもたらすように、スタートカリキュラムを工夫することが大切です。そこで、入学当初は、**「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ**と連続させることが重要となります。生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた**驚きや発見**を大切にし、**学ぶ意欲**が高まるように活動を構成することが有効です。

【新：小学校学習指導要領解説 総則編】　小学校の入学当初においては，幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが，各教科等における学習に円滑に接続されるよう，スタートカリキュラムを児童や学校，地域の実情を踏まえて編成し，その中で，生活科を中心に，合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の編成など，指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。こうした幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連や，スタートカリキュラムの編成の工夫については，各教科等の章における指導計画の作成と内容の取扱いにおいても示されている。

スタートカリキュラムのねらい

児童が安心して、学校生活を送ることができるようにすること	児童が各教科等の学習に意欲的に取り組むことができるようにすること	学習や生活の基盤となる学級集団をつくること
↓	↓	↓
学校の生活時程や校舎内の様子、きまりやルールに慣れるための活動	幼児期の教育との接続を意識した授業等の工夫	新しい先生や友達との出会いを楽しむ活動の工夫

スタートカリキュラム実施上の留意点

スタートカリキュラムについては、地域や小学校によって、児童の実態や状況が異なることから、どれくらいの期間、どのような方法で行うかは、それぞれの小学校において判断し、実施されるべきものです。そのような多様性を踏まえた上で、次のような点について配慮することが大切です。

★　子ども同士のつながりを深める・・・人間関係づくりプログラムの活用

（１）　一人ひとりの子どもの成長の姿から編成しよう。

（２）　学校全体で組織的に取組もう。

（３）　合科的・関連的な指導の充実を図る。⇒生活科を中心に。

入学当初をはじめとした低学年の時期において，生活科が中心的な役割を担いつつ，各教科等との合科的・関連的な指導の一層の充実を図ることが求められている。これは，一部に見られるような小学校入学期のみの適応指導を意味しているのではない。幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに，幼児期の実態を理解し，自覚的な学びとして期待する児童の姿を共有することが出発点となる。指導計画の作成に当たって，遊びを通じた総合的な学びから小学校教育への円滑な接続を図るためには，児童の学習環境についての見直しが必要である。

【新：小学校学習指導要領解説 生活編から】

（４）　子どもの発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫しよう。

（５）　安心して学べる学習環境を整えよう。⇒

（６）　保護者への適切な説明を行う。

１５分程度のモジュールを取り入れるなど、単位時間を柔軟に考えてスタートカリキュラムを計画していきましょう。

スタートカリキュラム作成の手順（小学校：例）

	月	取組	具体的内容
実態把握	4	◆校内小１プロブレム協議会 ◆入学式	●計画・立案 ●園児・児童の様子を観察
	5 6 7	◆幼保小連絡会 ◆交流活動 ◆校内小１プロブレム協議会	●幼保小年間交流活動計画の作成 ●情報交換（園児・児童の現状について） ●交流活動等を通して継続的実態把握 ●交流活動の成果と課題
	8	◆保育参観 ◆幼保小連絡会	●情報交換 （配慮や特別な支援が必要な園児について）
	9	◆校内小１プロブレム協議会	●児童の様子を観察
	１０ １１ １２	◆第１回就学児情報交換会 ◆就学児健康診断 ◆交流活動　◆幼保小連絡会	●園児の様子を観察（集団行動・話の聞き方等） ●配慮や特別な支援が必要な園児の活動観察 ●２学期の成果と課題
作成	1 2 3	**■カリキュラム作成委員会開催** ◆入学説明会 ◆新入児の学校見学 ◆第２回就学児情報交換会 ◆幼保小連絡会 ◆新入児の確定 ◆校内小１プロブレム協議会 **■スタートカリキュラムの完成**	●作業日程・分担などの確認 ●保護者にスタートカリキュラムについてお知らせ ●アンケート調査（幼保指導者・保護者対象に） ●情報交換（配慮や特別な支援が必要な園児について） ●本年度の取組の成果と課題 ●来年度の取組・連携計画 ●学級編成と来年度の行事の確認 ●全教職員に周知徹底
実践	4	◆入学式 ◆校内小１プロブレム協議会 **◆スタートカリキュラムの実施**	●児童の実態に応じて弾力的に実施
	5	◆校内小１プロブレム協議会	●実施したカリキュラムの成果と課題の把握

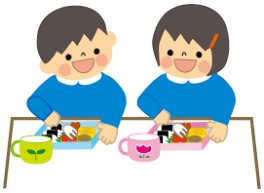
ＳＴＥＰ１	**スタートカリキュラム作成のための準備** 「スタートカリキュラム作成に関する基本的事項の確認」「組織と日程づくり」
ＳＴＥＰ２	**子どもの発達段階や特性を把握する** 「子どもの実態把握のための調査（保護者対象に）の実施」「幼稚園・保育園訪問、情報交換」 「一人一人の発達段階や特性の把握」「幼保と小学校の教育内容を比較検討する」
ＳＴＥＰ３	**入学当初に子どもたちに身につけさせたい力を話し合う** 「子どもの実態を想定する」「入学当初につけたい力を具体的に想定する」
ＳＴＥＰ４	**どんな力、どんな習慣をいつまでに身につけさせるか整理する** 「優先度を明確にし、入学当初に身につけさせたい力を絞り込む」
ＳＴＥＰ５	**指導内容とその配列を決め、スタートカリキュラムを作成する。** 「４～５月上旬の学校行事を日程表に位置づける」「週ごとのねらい（テーマ）を設定する」 「１日の学習の流れを考える」「各指導内容相互の関連に配慮し、授業時数を配当する」

スタートカリキュラムの充実に向けて

スタートカリキュラムの充実に向けては、小中ともに教育課程に位置付け、学校として組織的に行い、評価し、改善することが重要となります。１年担任だけの取組ではなく、小学校生活６年間ならびに、中学校生活３年間を支えるカリキュラムであることを教職員全体で理解し、取組を充実させていくことが大事です。

また、小学校においては幼稚園、保育所等の教職員と一緒にスタートカリキュラムを検討したり保護者アンケートを行い、その結果を反映させたりするとともに、必要に応じて健康推進課・社会福祉課・ＳＣ・ＳＳＷ等とも連携を図りながら情報交換することで、円滑な接続のためのスタートカリキュラムを編成することができます。

津久見市全ての小中学校において、一人ひとりの児童生徒が、安心して小中のスタートが切れるよう、各学校の実態に応じてスタートカリキュラムの充実に向けた取組を工夫しましょう。



【令和２度の津久見市スタートカリキュラムの取組について】

〇小学校・中学校ともに、「スタートカリキュラム」を作成・実施します。

〇週・月ごとに具体的な計画を立て、週ごとに改善点をさぐり、次年度へとつなげていきましょう。

〇日々の児童・生徒の活動の様子や個々の感想を細かく記録し、無理のないカリキュラムの進行を心がけましょう。